

3 学年進路通信 Vol.5

関東第一高等学校
 学校長 乙幡和弘
 監修 進路指導部
 7月17日(水)発行

進路通信 Vol.5では 2025 年度入試における主な大学の入試制度の変更点について記載しています。最新の入試情報をもとに、少しずつ入試戦略を立てていきましょう。なお、本年度より新課程入試が始まりますので、社会科(歴史総合の有無)や情報科の扱いなど受験予定の全ての大学において入試科目の確認は必ずしておきましょう。

また、これから夏休みを迎える受験生が自身の進路と向き合えるような様々な情報を掲載しています。しっかりと読みこんで夏を制し、自身を成長させていきましょう。

〇2025 年度入試トピックス

学習院大学：理学部化学科でプラス試験実施

神田外語大学：歴史を含む3科目入試を導入

北里大学：多数あるので、QR コードより確認

共立女子大学：総合型選抜基礎学力方式新設、共通テスト利用入試基準点型を導入



慶應義塾大学：理学部 AO 選抜入試変更、文学部英検利用入試開始

昭和女子大学：多数あるので、QR コードより確認

専修大学：スカラシップ入試の回数1回増加、英語英米文学科・ネットワーク情報学科の共通テスト利用方式の

入試科目変更

津田塾大学：総合政策学科の総合型選抜入試を併願制に、一般選抜で英検利用方式導入



東京経済大学：一般入試の受験回増加(2月3日)、探究評価型選抜を導入

東京女子大学：学科再編に伴う入試変更

東京理科大学：英検資格検定利用を伴う総合型選抜入試の新設

東洋大学：併願可能な学校推薦型選抜入試を新設



二松学舎大学：総合型選抜Ⅲ期新設、文学部で英検利用入試開始

文教大学：文理2教科入試新設、英検利用入試開始、健康栄養学部1月の総合型選抜入試新規実施

明治大学：国際日本学科における英検利用入試において地理歴史を廃止

明治学院大学：A日程において、経済学科 経営学科 国際経営学科 国際学科 国際キャリア学科 が得点換算方式を新規に実施



〇入試戦略とは

生徒には得意科目や苦手科目、得意分野や苦手分野もあれば、入試問題との相性もあります。それらを踏まえて入試スケジュールを立てることで合格可能性を高められます。

例 歴史学科、法学部を志望 平均偏差値：英 43.6 国 51.6(現代文 58.7) 世界史 58.1

生徒偏差値	大学	入試方式	出願学科(河合塾合格可能性 50%偏差値)	結果
50.8	國學院大學	A日程3教科	文学部史学科(57.5) ※均等配点	不合格
		A日程得意科目	文学部史学科(60) ※世界史1.5倍換算	不合格
		A日程学科特色	法学部法律学科(57.5) ※上位2科目判定	合格
		A日程学科特色	文学部史学科(57.5) ※世界史2倍換算	?

史学科を第一志望にしているため、本来であれば史学科を3日間受験することが定番です。しかしこの生徒は英語が苦手、という弱点がありました。逆に強みは現代文と世界史です。2月4日の史学科は英語・国語(現代文40点・古文40点・漢文20点)・世界史(2倍換算)という配点です。國學院大學は英語が易しく・国語・歴史は難易度が高い入試問題です。この生徒は英語が苦手なので英語で高得点を取ることは期待できません。世界史も難易度が高いので模試のように得点を取れるとは限らないので2倍換算でも有利に運ばないと考えました。そこで2月4日は合格の可能性が高いと判断して法律学科の受験を勧めました。法律学科の学科特色型入試は上位2科目判定となり、国語も現代文のみの出題を選択できます。そして得意分野を活かし見事に合格・進学しています。このように自身の学習における特色と入試問題の相性や入試科目・配点をもとに戦略を練ることで合格可能性の高い大学を受験することも考えていきましょう。

○夏休み中のスケジュールについて

すでに夏休みのスケジュールを立てていたり、何となくここまで終わらせようということを決めていたりしていることかと思いますが。スケジュールを立てる際、理想的なスケジュールを立てるのは裏に陥っている証拠で、大体その理想的なスケジュールは崩壊しますので気を付けてください。なぜなら実際の生活の中でイレギュラーな状況が発生するからです。ある日は家族で出かけることになった。ある日は友達と出かけることになった。ある日は風邪をひいてしまった。そういった想定外の出来事により、スケジュールは確実にずれていきます。

そこでスケジュールを立てる際には、本当の期限までの日数×2/3 で終わるように計画しておくのがベストです。例えば一週間でやろうと思っていることを5日間で終わらせるイメージです。イレギュラーな出来事が発生することを前提として、余裕を持ったスケジュールを作ることが重要です。ただし、予定を詰め込み過ぎると立てた計画が達成できずに自信を失ってしまう可能性もあります。まずはできること・できる範囲から着実に実行する計画にしましょう。そして、途中で計画を見直ししながら目標に向かって進めばいいのです。

勉強計画を余計に崩さないために、家ではわかる予定は聞いておくといいです。特に夕食の時間は事前に聞いておいてください。自宅学習だと「ごはんできたよ」と呼ばれば、そこで一度勉強を中断しなければならない(もちろん用意してもらっていることへの感謝は忘れず)ことが多いですね。これはかなり勉強効率を下げます。ただ、「夕食は何時にしよう」とこちらから注文したりするのは、家の人にストレスを与えます。したがって、「今日はだいたい何時ぐらいになりそう?」と軽く聞く程度にしてください。そして「その時間に合わせて勉強しようと思う」という理由も伝えましょう。こうすることで家族間のストレスを減らしながら計画的に学習に励むことができます。また、休日の予定も聞いて「日曜日に出かけなければならない」などと事前に把握しておけば、前日の土曜日に勉強量を増やしたりと計画を柔軟に変更するように手を打てます。このような細やかな家族間のやりとりは意外と盲点だったのではないのでしょうか。なぜ盲点になりうるかということ、家族だから何でも通じ合っているかと思っているからですね。「親しき中にも礼儀あり」という言葉があるように、家族という最も近い人間関係においても互いに気遣いや配慮を忘れないようにしましょう。家庭学習において家という環境がストレスになることは大敵です。

長い夏休みなので1日くらいは、と羽を伸ばしてしまうことがあるかもしれませんが、ただ1日でも完全な勉強オフ日をつくると、勉強をしなかったダメ人間というレッテルを後々貼ってしまい、自己肯定感が低くなり、気分の落ち込みが長引いて後に響いてしまいます。どんなにやる気が出なくても英単語帳を3ページでもやるなどして、少しでも頑張れた、と自己肯定感も損なわないようにしましょう。

そもそも何かに取り組む時に、やる気がある・ないってよく言いますが、やる気は自分で出すものです。「やる気スイッチってどこにあるんですか?」という質問を受けることがありますが、あんなものは塾が金儲けするための宣伝文句です。やる気があるから勉強をするのではなく、やる気を自分で出して勉強するのです。無理やりにも勉強をするからやる気が出てくるわけです。運動も仕事もそうです。まずは始める。習慣化するまで続ける。そして自ら一生懸命やるのが大事なのです。目の前のことに一生懸命になってみると、なんでもやる気になれるんです。私も今(24時過ぎ)、受験生のために終業式に配布したいという想いで家で仕事をしています。

例えば改札を通して、ホームに向かっていたら、絶対に乗らないといけないう電車が出発しようとしている。こんな場面に遭遇したら、急ぎますよね?やる気を出して急いだわけではなく、急がないと、と勝手にやる気が出て、気がつくと急ぐという行動をしています。これが勝手に生まれてしまう、第3のやる気と言われるギャップモチベーションなのです。やる気があるとか、ないとかではなく、遅れてしまいそうになっている現実と、時間通りに間に合うという理想とのギャップを少しでも埋めるために私たちは勝手に動いてしまえるんです。大学入試というゴールを常に忘れずに自然と身体が動いてペンを握っている状態を目指していきましょう。

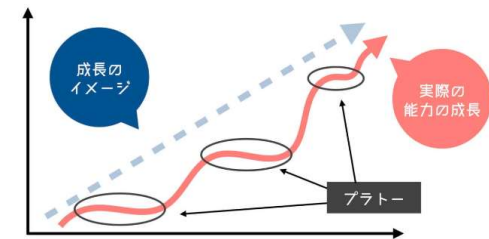
○プラトー現象を知っておこう!

やればやるほど成績の数字の成果として表れるのが受験勉強ですが、50時間勉強したら偏差値が5上がる、というように勉強時間と成績は比例しているわけではありません。いくら勉強しても基礎ができなければ少し難しい問題や応用問題はできるようにならず、すでにできている基礎問題はばかり解いても成績は伸びません。英語や古典は単語や文法などの基礎知識がなくては読解問題ができず、数学、物理は前に学習した単元がわからないと次の単元に進めない科目です。このような各科目の特性があるため、受験勉強を本格化させ、基礎学習を積み重ねても成果はすぐにはできません。そうすると受験勉強を開始してしばらくは勉強をするのが苦痛に思える事でしょう。このように受験勉強を本格化した時期が一番辛いかもしれません。

基礎が固まってくると成果も現れてきて受験勉強への手応えが出てきます。ただ、偏差値を見ると、第1回模試偏差値45→第2回模試偏差値45と数値が変わっていないこともあります。「偏差値が変わらない＝学力が伸びていない」ではありません。偏差値は相対的評価なので、偏差値が変わらないということは、集団内での位置は変わっていないだけで、周囲の受験生に付いていっている証でもあります。偏差値が大幅に下がっているようであれば、他の受験生に差がつけられている、と実感した方がよいでしょう。

受験勉強の手応えを感じるようになった頃にプラトー現象が訪れます。プラトー現象とは、努力しているにも関わらず、成長を感じられない状態のことです。夏休みに受験勉強に集中したから結果が出る、と思って秋の模試を受験すると偏差値が変わらずショックを受ける受験生が多いのですが、これはプラトー現象によるものです。この停滞期を乗り越えて受験勉強を継続することで、また結果として成果が表れるようになります。受験生は入試中も伸びる、と教員も声を掛けますが、これは事実です。それまでの受験勉強の成果を入試中に発揮しつつ、入試問題という問題演習に取り組み、復習をするといった受験勉強を入試中も継続することで合格を勝ち取ることができます。以下の学習曲線を頭に入れておけば、成績の伸び悩みに苦心することも減るかもしれません。

成長曲線とプラトー (高原現象)



(スポーツ選手のメンタル応援メディアココロメンテより引用)

人生はなかなか思うようにいかないことの連続ですし、受験勉強によって自己コントロール力を鍛えることは、必要ときに勉強を頑張ったり、継続的に勉強する習慣を身につけるのに役立つだけでなく、人生において降りかかってくるさまざまな試練を乗り越える力にもなります。

人生は思い通りにならないことだらけなのに、忍耐力の乏しい子どもや若者は、挫折するたびに心が折れ、生きづらさに苦しみ喘ぐこととなります。当然のことですが、勉強ができるようになり、楽しいと思えるようになるにも、地道に努力を続けられる忍耐力、怠け心や遊びの誘惑に負けない克己心、やらなければならないことに向けて、自分を動機づける力といった非認知能力が必要となります。受験勉強は生きる力を伸ばすことにもつながっているのです。この夏の皆さんの頑張りを期待しつつ、2学期に成長した姿でお会いしましょう!!